

## はじめに

平成30年7月豪雨は、7月5日から7日にかけての大雨により、これまで比較的災害が少ないといわれていた岡山県においても大雨特別警報が発表され、倉敷市真備町において大規模な浸水被害が発生するなど、市内の各地で甚大な被害が発生しました。

全国各地においても大きな被害をもたらしたこの豪雨は、気象庁によりその名称を「平成30年7月豪雨」と定められました。改めて、この災害により犠牲となられた方々のご遺族に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災されました皆様方に心からお見舞い申し上げます。



環境省では中国四国地方環境事務所に7月8日に災害対策本部を設置し、7月9日から環境省職員及び災害廃棄物処理支援ネットワーク（D.Waste-Net）の専門家からなる現地支援チームを倉敷市に派遣しました。現地では、関係省庁、関係団体等と協力・連携しながら倉敷市の処理全般に係る技術的な支援、災害等廃棄物処理事業費補助金の活用による支援、広域処理の推進等、多方面にわたる支援を進め、迅速な復旧・復興対応に向けた支援に全力をあげました。

本災害では、想定以上の災害廃棄物の発生により、道路や街中の至る所で片付けごみが混合状態で溢れる事態となり、その早期撤去が発災初期の最大の課題となりました。大量に発生した災害廃棄物の処理に向けて、倉敷市と環境省とが連携して、倉敷市災害廃棄物処理計画をもとに公衆衛生の確保及び生活環境保全上の支障の除去を最優先とした基本方針を定めるなどの取組を進めました。また倉敷市においては、災害廃棄物対策室を立ち上げ、処理の完了に向けた取組を推進することで、災害廃棄物の早期処理に貢献しました。

今回の災害は、水害によって生じた混合廃棄物の路上堆積や早期処理に向けた連携や、発災初動期の体制構築など、多くの教訓を得ることができました。本災害の経験で得られた教訓を今後の災害廃棄物の迅速且つ適正な処理へつなげるべく、今般、倉敷市環境リサイクル局の皆様の全面的な協力を得て記録誌としてとりまとめることといたしました。また、本災害における市の対応の振り返りや検証作業を踏まえ、今後の災害廃棄物処理に係る課題等についても整理しました。

本記録誌が、全国の地方自治体職員の方々、関係団体の方々等において、今後の災害に対する事前の備えをさらに推し進める契機となり、発災時の早期復旧・復興の一助となれば幸いです。

令和3年3月  
中国四国地方環境事務所長  
上田 健二

## はじめに

倉敷市は、平成 30 年 7 月 5 日から降り続いた豪雨により、5,970 棟以上の住家が床上浸水以上の被害を受けるといふ、倉敷市始まって以来の甚大な災害となりました。

あらためて、この未曾有の大災害により、お亡くなりになりました方々のご冥福を心よりお祈り申し上げますとともに、ご遺族の皆様にご心遣い申し上げます。また、被災されました皆様に心よりお見舞いを申し上げます。



さて、倉敷市ではこの災害で発生した約 35 万 t もの膨大な災害廃棄物の処理を、発災から約 2 年間で完了するという計画を策定し処理を進めてまいりましたが、昨年 9 月末をもって全ての災害等廃棄物処理事業を完了することができました。

廃棄物の処理にあたりましては、自衛隊をはじめ、国、県、他自治体、支援団体、企業の皆様、ボランティアの皆様から多大なるご支援ご協力を賜り、災害からの復旧・復興への大きな力となりました。ここに、あらためて厚くお礼を申し上げます。

倉敷市ではこの度の災害における経験を踏まえ、災害廃棄物処理体制の充実に不断の努力を続けていますが、頻発・激甚化する自然災害に対して更なる体制の強化を図るためには、国や県をはじめ民間事業者やNPO等との連携に基づく重層的支援体制の構築が不可欠であると感じています。

そのようななか、倉敷市では「倉敷市地域防災計画」において、新たにボランティア等との効果的な連携を追加するとともに、「倉敷市災害廃棄物処理計画」の改定や「災害廃棄物処理初動マニュアル」の策定において、民間、ボランティア等との連携の強化を図っているところ です。

この度、平成 30 年 7 月豪雨災害における災害廃棄物処理を振り返り、災害の経験や教訓を風化させることなく後世に語り継ぐことが私たちの責務と考え、環境省の協力を得て記録誌という形にとりまとめさせていただきました。

全国の自治体におかれましても、本誌が災害廃棄物処理対策の一助になれば幸いです。

最後に、本誌発刊にあたりご指導・ご助言をいただきました、環境省中国四国地方環境事務所及び国立研究開発法人国立環境研究所 多島様、また、ヒアリングでご丁寧な説明をしてくださりましたボランティア団体の皆様にご感謝申し上げますとともに、発災から現在までに全国の皆様から賜りました温かいご支援に重ねて感謝申し上げます、発刊のご挨拶とさせていただきます。

令和 3 年 3 月  
倉敷市環境リサイクル局長  
三宅 幸夫